

警察官・教師・保育士になるにあたってのスポーツ経験に関する研究

脇阪 早紀子 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)
指導教員 新井 博

キーワード：スポーツ経験，影響，職業

1. 諸言

私は、大学3年生の頃から警察ボランティアなどをしており、警察の方などと一緒に活動をしてきている。そこから、いくつかスポーツの経験から感じるがあった。

最近、警察官を志望する人の中で、「公務員は安定している職業だから」などスポーツ経験関係なく、警察官になっている人も少なくないのが現状だと考えられる。その中で、警察官は、体を張った仕事も多く、スポーツ経験はその後の仕事に大きく影響していると考えられる。

また、教師という職業（体育に限らず）では、体力のいる職業ではあるが、スポーツ経験はあまり関係ないと考えられる。

また、保育士に関しても、体を使った職業ではあるが、スポーツ経験の影響はあまりないのではないかと考えられる。

そこで本研究では、警察官・教師・保育士のそれぞれの職業において、スポーツ経験は重要な影響があるのかを明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

方法としては、警察官・教師・保育士にアンケートを実施した。

その際、滋賀県警察本部（交通課）25名、滋賀県内の中学教師11名、滋賀県内のA保育園の保育士17名に協力していただき、アンケート調査を実施する。

3. 結果と考察

警察官・教師・保育士のそれぞれの職業にスポーツ経験が及ぼす影響はほとんど変わらないことが分かった。その中でも、どの職業でも体力は必要だという結果から、スポーツ経験の影響は少なからずあるということが分かった。しかし、体力面だけが影響しているのではないことも分かった。スポーツ経験があると、人間関係や精神面でも影響されたという回答があった。

4. まとめ

この結果からその職業にもスポーツ経験が必要とされていることが分かった。また、学生時代の経験だけでなく、職に就いた今でもスポーツをしているとより良いということも分かった。

これらのことから、これからはそれぞれの職業にスポーツ経験は求められるだろう。

【参考文献】

- ・ 山口県警察のホームページ(2012)
<http://www.police.pref.yamagucya.jp/>
(取得日：11月20日)